



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	つながりをつくりだすメディアとしてのHUSCAP : とある学府の電子書庫（リポジトリ） : 奈良県立大学 岡本 健 先生
Relation	学術成果のオープンアクセスとHUSCAP : 世界へ伝える・未来へつなぐ (Open Access and HUSCAP : Provision to the World, Passage to Future Generations). 北海道大学附属図書館 本館 正面玄関ホール (展示) . 2013年10月21日 (月) ~11月4日 (月・祝) . 札幌市.
Issue Date	2013-10-21
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/57908
Type	lecture
File Information	OpenAccessWeek_06.pdf



つながりをつくりだす メディアとしての HUSCAP

ーとある学府の電子書庫 (リポジトリ)

奈良県立大学 岡本 健 先生
(国際広報メディア・観光学院 博士後期課程修了)

私は現在、奈良県立大学で「メディア産業論」「メディア・コンテンツ論」を担当する大学教員です。専門は観光社会学、コンテンツツーリズム学、ゾンビ学(!)です。北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院 観光創造専攻に所属していた時、アニメの聖地巡礼について研究をはじめ、その成果を修士論文「情報化社会における自律的観光のあり方に関する研究」^[1]にまとめ、その後も研究を継続し、博士論文「情報社会における旅行者の特徴に関する観光社会学的研究」に成果をまとめました。

アニメ聖地巡礼の研究を始めて最初に世の中に発表した文章は「アニメ聖地における巡礼者の動向把握方法の検討」^[2]でした。これは、北海道大学観光学高等研究センターが発行している『観光創造研究』に研究ノートとして発表したものです。この文献をはじめ、その後、論文や、学会発表の要旨、発表用スライド、ポスター発表、報告書、同人誌など、様々な形で発表した研究成果をHUSCAPで公開させていただきました。先ほどの研究ノートは2013年9月末で2,727ダウンロード、修士論文は1,901ダウンロードしていただいています。

修士の大学院生が書いたものがたくさんの人の目に触れることはなかなかないのではないかと思います。私の場合はHUSCAPのおかげで学内外のたくさんの方に自分の研究成果を見ていただくことができ



岡本先生(左)とその恩師、山村高淑先生(右)

ました。学問分野や学生指導の方針などで様々かとは思いますが、大学院生にとって、多くの人の目に自分の研究成果が触れ、様々な意見をいただけることは、研究の質の向上や多角的な視野の獲得、モチベーションを高めることにつながります。

具体的に紹介しますと、まず研究者に自分の研究内容を知らせることができます。そうすることで様々なご批判やご評価をいただくことができました。研究会や学会、講演会での発表機会や書籍執筆の機会、新聞や雑誌の取材をいただくこともありました。その際、多くの場合HUSCAPで論文を公開しているのを読んで連絡をくださっています。自分の研究を公開することで存在感を示すことができたと感じています。また、分野の近い学生はもちろん、異なる分野や学外の学生との交流のきっかけにもなり、広い視野を得られたと感じています。

さらに、私の分野は観光に関する分野ですので地域で出会う方々とのかわりもあります。調査結果を広く還元する責任があるわけですが、報告書を作って配布するだけではなく広く波及していくところがあります。報告書を出し、それをHUSCAPに掲載してもらうことで、調査地域の方々にはもちろん、協力してくださった様々な方に結果を還元することができました。北海道大学観光学高

アニメの聖地鷺宮の土師祭で担がれる千貫神輿（手前）とらき☆すた神輿（奥）。地域文化とコンテンツ文化が混濁した観光文化が旅行者だけでなく、地域の人々をもひきつけている。

社会的・文化的背景

文化のあり方、メディアのあり方、ジェンダー、家族のあり方、価値観（ライフスタイル）のあり方、仕事とレジャーのあり方、都市のあり方、階層のあり方、社会の情報化など

コンテンツツーリズム

ツーリスト

ツーリストのタイプ、観光経験、ツーリストの社会的心理、ツーリスト同士の相互作用など

地域住民

地域における伝統の保存と変容、開発と保存をめぐる地域住民間の想いの違い、地域住民同士の相互作用など

観光プロデューサー

観光を制作する現場の仕組み、旅行関連業者の戦略、旅行関連業者の企業分析・組織分析、ホテルや旅館の文化論、観光行政・政策、観光関連法制度、旅行をめぐる流通・販売の分析、プロデューサー間の相互作用など

コンテンツプロデューサー

コンテンツの企画・立案、コンテンツの制作、コンテンツの流通・販売、コンテンツの管理、コンテンツ関連法制度、コンテンツの消費のされ方、プラットフォームの整備、プロデューサー間の相互作用など

コンテンツツーリズムには様々なアクターが関わり、関連分野も幅広い。
（岡本（2011）より）

等研究センターの研究プロジェクトに参加し、指導教員であった山村高淑先生が代表として埼玉県の鷺宮町（当時）についての研究成果を『メディアコンテンツとツーリズム』^[3]としてまとめられた時、私も編集のお手伝いや原稿執筆をしました。この叢書はHUSCAPのおかげで、他地域で観光振興に携わっている方のお役に立てていただくこともできました。現地調査に行った時に、プリントアウトされた自分の成果がぼろぼろになるまで読まれているのを見た時は、感激するとともに、自分が書いて公表した文章には大きな責任が伴うことも実感しました。

さらに、学内にも自分の研究を発信することができます。HUSCAPには「高頻度利用アイテム」というランキング機能がありますが、そちらにランクインすると、学内であまりお目にかかったことが無い先生や学生にも私の研究を知っていただけました。

HUSCAPを活用することで、研究生活の面では、



HUSCAPで読めます！ 岡本先生の研究成果

- [1] 岡本健（2009）「情報化社会における自律的観光のあり方に関する研究 ―アニメ聖地巡礼の旅行行動の特質とその課題」
<http://hdl.handle.net/2115/38233>



- [2] 岡本健（2008）「アニメ聖地における巡礼者の動向把握方法の検討 ―聖地巡礼ノート分析の有効性と課題について」『観光創造研究』, 2, pp.1-13.
<http://hdl.handle.net/2115/34672>



- [3] 北海道大学観光学高等研究センター文化資源マネジメント研究チーム（2009）『メディアコンテンツとツーリズム』CATS叢書, 1
<http://hdl.handle.net/2115/38119>



研究、発表、評価のサイクルがまわり、研究のモチベーションが持続します。地域連携の面では、成果を社会に還元できるとともに、研究ニーズもつかめると感じています。講演や取材のご依頼をいただいたり、別の地域の調査をする際にも実績として提示したりすることもできます。さらに、キャリア構築の点では、博士号を得た後の就職、その際に重視される教歴を積むチャンス（非常勤講師）、書籍執筆の機会などを得られたと感じています。

大学院を修了し、教員になってからもHUSCAPにお世話になっています。先日、ある編集者の方からメールをいただきました。なんと、私が書いた「ツアー・オブ・ザ・リビングデッド」というゾンビ映画についての論文を読んで書籍出版についての連絡をくださったのです。これもHUSCAPが無ければあり得なかったチャンスです。HUSCAPは私といろいろなことをつないでくれています。